

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2023年5月号

- ◇ ニューヨーク国際オートショー・・・・・・・・・・・・・・・・ P.1
- ◇ NYライフ・ニューヨーク近郊のワイナリー・・・・・・・・ P.3
- ◇ ニュース一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部





【写真引用：pixabay】

ニューヨーク国際オートショー

1900年から続く米国最古のオートショー「ニューヨーク国際オートショー」が、2023年4月7日～16日に開催されました。今回は、その模様についてレポートします。

1. 2023ニューヨーク国際オートショーの概要

- ✓ ニューヨーク国際オートショーは、マンハッタンのハドソンヤード地区（再開発地域）にある「ジャビッツセンター」にて開催されました。
- ✓ オートショーには21ブランドが出展し、日本車メーカーからは5ブランド（トヨタ、ホンダ、日産、SUBARU、LEXUS）が出展していました。
- ✓ 昨年は25ブランドが参加しており、ブランド数は昨年比減少（▲4ブランド）しました。

写真1 ジャビッツセンター（会場）



2. 今年の展示の特徴

(1) EV試乗コースが人気

- ✓ ディーラーの屋内ブースでは、フォード社やヒュンダイ社が試乗コーナーを設けていました。トヨタ社は「bZ4X」の試乗コーナーを屋外に設置し、人気を博していました。
- ✓ 各EVメーカー合同のEV試乗コーナーもあり、試乗を待つ客で行列ができていました。

(2) EV車種ラインナップの増加

- ✓ フォード、GM（シボレー）、ステランティス※（RAM）などの伝統的なメーカーでもEVのラインナップが増加しており、米メーカーのEVへの注力が伺えました。

※以前の社名は「FCA（フィアット・クライスラー・オートモービルズ）」

- ✓ シボレー社のコンパクトSUV「ブレイザーEV」は、米国で人気の車種です。RAM社の「1500REV」は、日本では目にする事の少ないピックアップトラックというタイプであり、大型車種にまでEV化が浸透しつつあることが窺えました。

(3) アジア・欧州メーカーの様子

- ✓ アジア勢（含む日本勢）の展示は、昨年同様、広いスペースで行われていました。日産はLeaf（EV）に加え、GTR等のスポーツカーの魅力を伝え、SUBARUはアウトドアユーザー需要を意識した展示作りをしていました。また、昨年に引き続き韓国メーカーのヒュンダイ（現代自動車）、キア（起亜自動車）の2社は、スタイリッシュな展示でブランドイメージ向上を図っていました。一方、欧州メーカーはフォルクスワーゲン社を除き存在感が小さい印象でした。

写真2 試乗コーナー

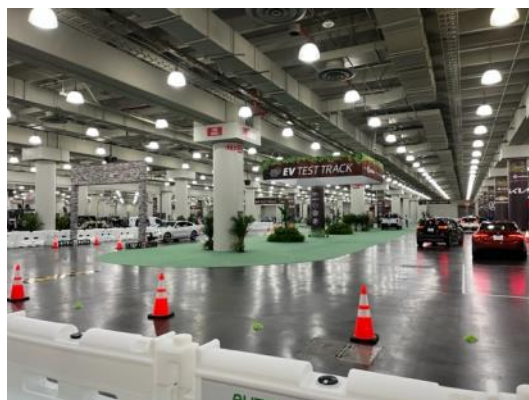


写真3 RAMのEVピックアップトラック



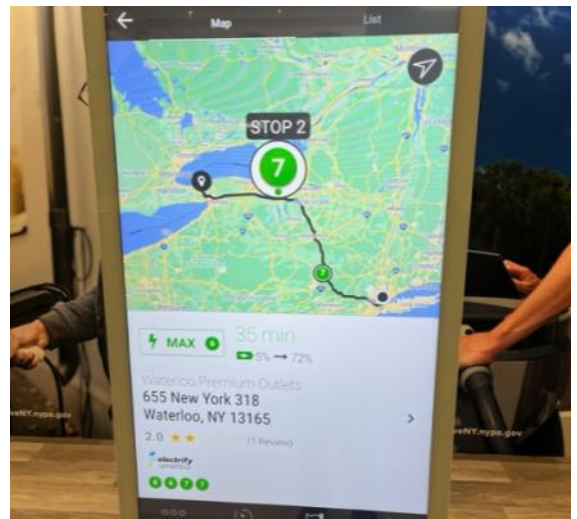
3. EV充電設備に関する展示

- ✓ 充電器設置会社Autelは、充電器のモデルを設置し、充電の仕方を実践的に教えるコーナーを設けていました。
- ✓ ニューヨークで充電設備の普及活動を行うCharge NY[※]は、充電設備に関連するアプリの活用法を紹介していました。アプリでは、充電設備の検索だけでなく、「Trip Planner」機能で目的地までの充電施設の場所や数、どれくらいまで充電すべきか（充電量・充電時間）などのシミュレーションができます。長距離ドライバーの多い米国ユーザーが懸念する、EV充電設備の不足という課題に対応した機能が登場していました。

※ Charge NY…NY州エネルギー研究開発局・電力局・環境保全局による電気自動車の推進イニシアチブ

- ✓ EV普及の過程ではこのような新しいサービスやビジネスが続々と生まれています。

写真4 EV充電施設と道程を表示するアプリ



4. オートショーに対する評価

- ✓ 今回のオートショーに対してメディアや識者からは様々な意見が聞こえてきています。

<ポジティブな意見>

- ◎ 各社EVのラインナップが増え、特に大型車が次のEVの主戦場となりつつあることが分かったのは良かった。
- ◎ EV試乗コーナーの面積が広く、潜在顧客のUX（ユーザーエクスペリエンス）が広がることが期待できる。

<ネガティブな意見>

- △ 出展社数が昨年から減少してしまった。また、同時期に上海で開催（4月18日～）されているオートショーは、EV色を打ち出す方針がはっきりしており、見劣りしてしまう。
- △ 試乗コーナーが増えたのはいいが、出展メーカーや展示車が少ないことの裏返しであり、熱量の低さを感じる。
- △ 現地アナリストに話を聞くと「少々インパクトに欠ける印象。展示の意思決定は（メーカーではなく）現地ディーラーの意向であり、販売における「ショー」の重要性が低下しているのではないか。昨年の米デトロイトモーターショーはむしろ「バッテリー」関連の展示が来場者の関心を惹きつけていたことから、消費者の関心は更にEVに傾いてきているのでは。」とのことでした。

- ✓ 4月18日、米国政府はEV補助金の対象を現段階で米メーカー（3社）のみを対象[※]とすると発表し、衝撃を与えました。引き続きEVは自動車業界の台風の目となりそうです。

※今後米国内生産施設設立で対象メーカーも増加する見込み。

写真5 試乗したヒュンダイ「IONIQ5」のインパネ



写真6 フォードの試乗コーナーに並ぶ人々



5. おわりに

- ✓ ニューヨークでは街中を走るEVを目にする機会も増え、珍しい光景ではなくなりました。一方、同市場の急拡大は既存の自動車部品メーカーへ与える影響も小さく、今後の動向が注目されます。
- ✓ 当事務所ではこうした米国の現地事情を紹介し、皆様のお役に立てる情報を提供してまいります。

（お問い合わせ先：newyork@joyobank.co.jp）

【ニューヨーク駐在員事務所 吉田 圭佑】

NYライフ ～ニューヨーク近郊のワイナリー～

全米屈指のワインステート

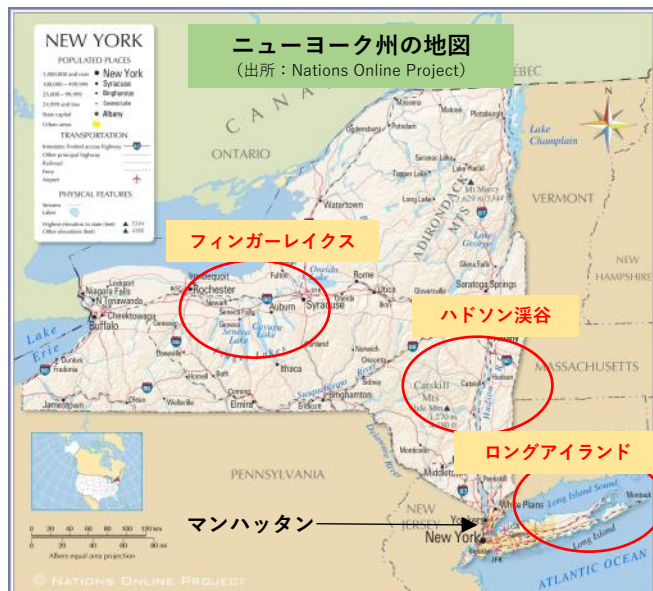
米国でワインといえばカリフォルニア州が有名ですが、ニューヨーク州は、カリフォルニア州、オレゴン州に次ぐ第3位の生産量を誇ります。

「マンハッタン」、「大都会」のイメージの強いニューヨークですが、州内でも都市部はほんの一部。ニューヨーク「州」は広く、カナダと国境を接し、郊外には豊かな森林が広がり、湖からは澄んだ水がいくつもの川となって海に流れ出る、自然に恵まれた土地です。

ニューヨーク州のワイナリーは5つの生産地域があり、そのうちよく知られているのは、マンハッタンから東側に位置する「ロングアイランド」、北の「ハドソン渓谷」、さらにその北西に位置する「フィンガーレイクス」（その名の通り人の指の形をした湖があると呼ばれる地域）です。

ニューヨーク州で作られるワインの特徴

米国西海岸のカリフォルニア産ワインは、日照時間が長いことからぶどうが良く熟しており、味わいは「どっしり」とした特徴があります。一方、ニューヨークの気候は夏は摂氏30度を超える日もありますが、冬場は氷点下が続く寒冷地です。そのため、ニューヨーク産のワインは、カベルネフランやリースリングなどの耐寒性のある品種が使われており、「すっきり」とした味わいが特徴です。ドイツ産白ワインとして有名なリースリング種は甘いイメージがありますが、ニューヨーク産のワインはすっきりと上品に仕上がりに、ドライな味わいが好きな方にも好まれます。



ハドソン渓谷のワイナリー

マンハッタンから車で北に100キロ超、2時間ほどの場所にあるアルスター郡・オレンジ郡にワイナリーが集積している地区があります。ここは1600年代に最初のヨーロッパ人が移住してきた土地で、周辺には多くの史跡が残されています。そのため、米国でも「最古のぶどう園」として長い歴史があり、著名ワイナリーを多く抱えています。

森に囲まれ、きれいな水に恵まれた土地は、秋にはりんご狩りやかぼちゃ狩りもできます。日本のワインの名産地である山梨県を思い起こさせる地域です。

各ワイナリーでは有料でテイastingもでき、醸造所の見学を提供しているところもあります。年間定期的（3か月毎など）にワイナリーが指定する一定数（例：4本）を購入することを予め約束すれば、無料でワイナリーの「メンバー」となる仕組みもあります。メンバー特典として、テイasting無料、ワイン購入15%オフ、製造現場の見学ツアーができます。この地域では、夏はキャンプや溪流下り、冬はスキーもできるため、頻りに足を運ぶことを想定して思わずメンバーになってしまいました。ただ、私はいつもドライバーなのでテイastingは同行者のみです（泣）。

これからの季節、きりっと冷えたロゼを野外で楽しむのがニューヨークの夏の風物詩です。ニューヨークにいらした際は、マンハッタン観光の合間にワイナリー巡りでもいかがでしょうか。

（写真は全て筆者撮影）

【ニューヨーク駐在員事務所 吉田 圭佑】

News 一覧

<政治>

- ・バイデン大統領、トランプ氏起訴を報道で認識＝報道官（4/1）
- ・米下院議長、5日にカリフォルニア州で台湾総統と会談、正式発表(4/4)
- ・中国、台湾総統と米下院議長の会談に警告、在米総領事館が声明(4/4)
- ・バイデン大統領、国賓として英国訪問へ、チャールズ国王が招待(4/6)
- ・米下院議長が台湾総統と会談、揺るぎない支援表明、中国は反発(4/6)
- ・中国、台湾の駐米代表に制裁 蔡総統と米下院議長の会談に反発(4/7)
- ・バイデン大統領、24年大統領選に出馬の意向 正式発表の準備まだ＝T V(4/10)
- ・米財務・商務長官の訪中巡り中国側と協議＝ホワイトハウス(4/11)
- ・米下院、ファーウェイとZ T E 監視の新たな法案採決へ(4/12)
- ・バイデン大統領、アイルランド議会で演説、祖先の国に「戻ってきた」(4/14)
- ・米下院議長「無条件の債務上限引き上げは通過せず」、独自案採決へ（4/18）
- ・米政権、商業用不動産の動向注視、金融不安受け＝C E A 委員（4/19）

<金融政策>

- ・米金利先物、5月据え置き確率57%に上昇、低調な求人件数受け(4/5)
- ・F R B、追加利上げの公算 5%超に＝クリーブランド連銀総裁(4/5)
- ・利上げ継続すべき、労働市場が堅調な間に＝米セントルイス連銀総裁(4/7)
- ・F R Bの銀行向け融資がやや減少、問題沈静化の兆し(4/7)
- ・米銀行の預金残高、地銀破綻後初めて増加に転じる＝F R B 統計(4/10)
- ・米インフレ、緩やかに鈍化 25年に2%に戻る見通し＝N Y 連銀総裁(4/11)
- ・利上げ巡り慎重さと忍耐必要、銀行セクターの緊張踏まえ＝シカゴ連銀総裁(4/12)
- ・フィラデルフィア連銀総裁、5%超に利上げ後に停止のシナリオ支持(4/12)
- ・F R B 利上げ・停止の双方に「十分な理由あり」＝S F 連銀総裁(4/13)
- ・前回F O M C、銀行破綻受け利上げ停止検討 最終的に物価優先＝議事要旨(4/13)
- ・前回F O M C、4地区連銀が0.25%利上げ望まず＝議事要旨(4/13)
- ・F R B 1回利上げで停止可能、物価に落ち着き＝アトランタ連銀総裁(4/14)
- ・F R B、一段の利上げ必要 物価「進展見られず」＝ウォラー理事(4/15)
- ・米銀破綻、銀行規制を非難するものではない＝ボウマンF R B 理事(4/15)
- ・米追加利上げ、銀行融資引き締めで不要になる可能性＝イエレン氏(4/16)
- ・F R B は利上げ継続を、米景気後退陥らず＝セントルイス連銀総裁（4/18）

<経済指標>

- ・中古住宅販売戸数：2月は13カ月ぶりに増加、価格は12年以降初の下げ（予想420万戸）（3/22）
- ・新築住宅販売戸数：2月は1.1%増の64.0万件、予想は下回る（予想65.0万件）（3/23）
- ・消費者景気信頼感指数：3月は104.2と予想外に上昇（予想101.0）（3/28）
- ・ISM製造業総合景況指数：3月は46.3と約3年ぶりの低水準（予想47.5）（4/3）
- ・ISM非製造業総合景況指数：3月は51.2とで前月55.1から低下（予想54.5）（4/5）
- ・非農業部門雇用者数：3月は前月比+23.6万人と市場予想を僅かに下回る（予想+23.9万人）（4/7）
- ・失業率：3月は3.5%に低下（予想3.6%）（4/7）
- ・消費者物価指数：3月は前年同月比+5.0%で伸び率鈍化（4/12）
- ・米ミシガン大学消費者信頼感指数：4月は63.5と、前月の62.0から上昇（4/14）
- ・小売売上高：3月は前月比▲1.0%（予想▲0.4%）（4/14）
- ・住宅着工件数：3月は前月比▲0.8%の142万戸で予想を上回る（予想140万戸）（4/18）

（出所：各種新聞等、2023年3月下旬～2023年4月下旬のニュースを抜粋）